



宝塚さざんか福祉会 法人理念

法人は、利用者一人ひとりの想いを大切に、これを共有し、その想いが実現できるよう支援します。

職員は、職業人としての自覚を持ち、自ら資質の向上を図り、豊かな人間性の醸成に努めます。

法人は、地域と共に暮らし、地域と共に活動して地域のコミュニティ発展に寄与します。



表紙写真提供：さざんかグループホーム

Contents

常務理事、運営・企画部長挨拶	2P
企画部長挨拶	3P
組織図	4P
事業計画・研修計画	5・6・7P
入職職員紹介	8・9P
ときめき・後援会ニュース	10・11P
法人へのご寄付／入職式	12P



ごあいさつ



令和6年度ご入職された皆さん、おめでとうございます。ようこそ宝塚さざんか福祉会へ。一同、両手を大きく広げて歓迎いたします。

法人理念の一説に、「・・・利用者一人ひとりの想いを大切にし、これを共有し、その想いが実現できるように・・・」とあります。私たち障害福祉専門職員が何を求められ、何を実現していくのかをチームでコンセンサス（合意形成）し、協働していきましょう。そして、利用者をはじめとしたすべての人にとって、“ここ”がおもしろい場所であり続けられるよう、ともに頑張りましょう。

関係者の皆様へ 今年度は、地域生活支援との一体型事業体制という新しい支援システムが出発した大切な一年となります。このシステムが軌道に乗り広がっていくことで、宝塚でのより良い暮らしがまた一步実現に向かいます。福祉人材不足等、福祉課題の影響等により難しいチャレンジである側面も否めませんが、関係者の皆様からの温かい信頼とご協力のおかげでスタートを切っております。従事する法人のスタッフ一同は、本当に頑張って日々奮闘しておりますので、今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



常務理事
辻井 善弘



持続可能な事業運営に向けて

令和6年度、「くらしサポートオフィス安倉」の名称で、利用者の日中生活を支える生活介護事業所、暮らしを支えるグループホーム4ホームとが一体で支援に取り組む、新しい支援グループを安倉地区に創設いたしました。

これは、利用者一人ひとりに深く寄り添いながら、24時間、365日の視点で支援を考える事ができる体制を、将来にわたって持続していく為の法人全体での取り組みになります。

大きな社会問題である少子高齢化がもたらす労働人口の減少は、福祉分野では危機的な人材不足に繋がっています。その中で、法人として利用者ニーズを充足できる体制を維持していく為には、すべての拠点の役割や事業運営の在り方、人的資源の有効活用など、総合的な視点で検証した上で事業運営を進める必要があります。

その為には、皆さまのご理解、ご協力が必要不可欠となりますので、今後も変わらぬご支援のほど、よろしくお願いいたします。

運営・企画部 運営部長
八木 誠

就任の挨拶

この度、運営企画部企画部長を拝命する事となりました山下と申します。この度のご指名は非常に光栄でありますと共に、大変な重責に身の引き締まる思いであります。

私は1999年4月にいきいき宝塚が新規開設と同時にご縁を頂いて入職致しました。支援の経験もない働き始めの頃は、気持ちも揺れ動く毎日でした。お役に立てたかも知れないと心が満たされる日もあれば、利用者の考えや行動が分からずに脱力する様な気持ちを抱いた日の事も思い出します。色々な日がありながらも、利用者の皆様との日々の生活は、私の中に沢山の大切な財産を残して下さり、ご家族の献身的な姿勢や温かな愛情と包容力に接した事が、私の福祉の仕事の原点となりました。

ある利用者がコーヒーを飲みたい希望がありながらも、その道中にあるものが気になり、コーヒーに辿り着くまでにアクシデントが起こってしまう事がありました。アクシデントよりも、その人がコーヒーを飲みたいという希望に目を向け、法人内外の支援者が集まり、人がカーテンの様な役目を果たしながら何とかコーヒーまで辿り着いた時に本当に嬉しかった経験があります。

この様な経験以外にも、人にはそれぞれ違った価値や願いがある事を感じる場面が日常の中に沢山あり、大小に関わらず私たち（利用者）の希望を大切に考えてね!というメッセージと課題を受け取り続けているような気がしてきました。その経験はいつしか、自分自身が、人の願いに目を向ける視線に変わり、人の願いが叶う瞬間が自分自身の喜びに繋がっていききました。

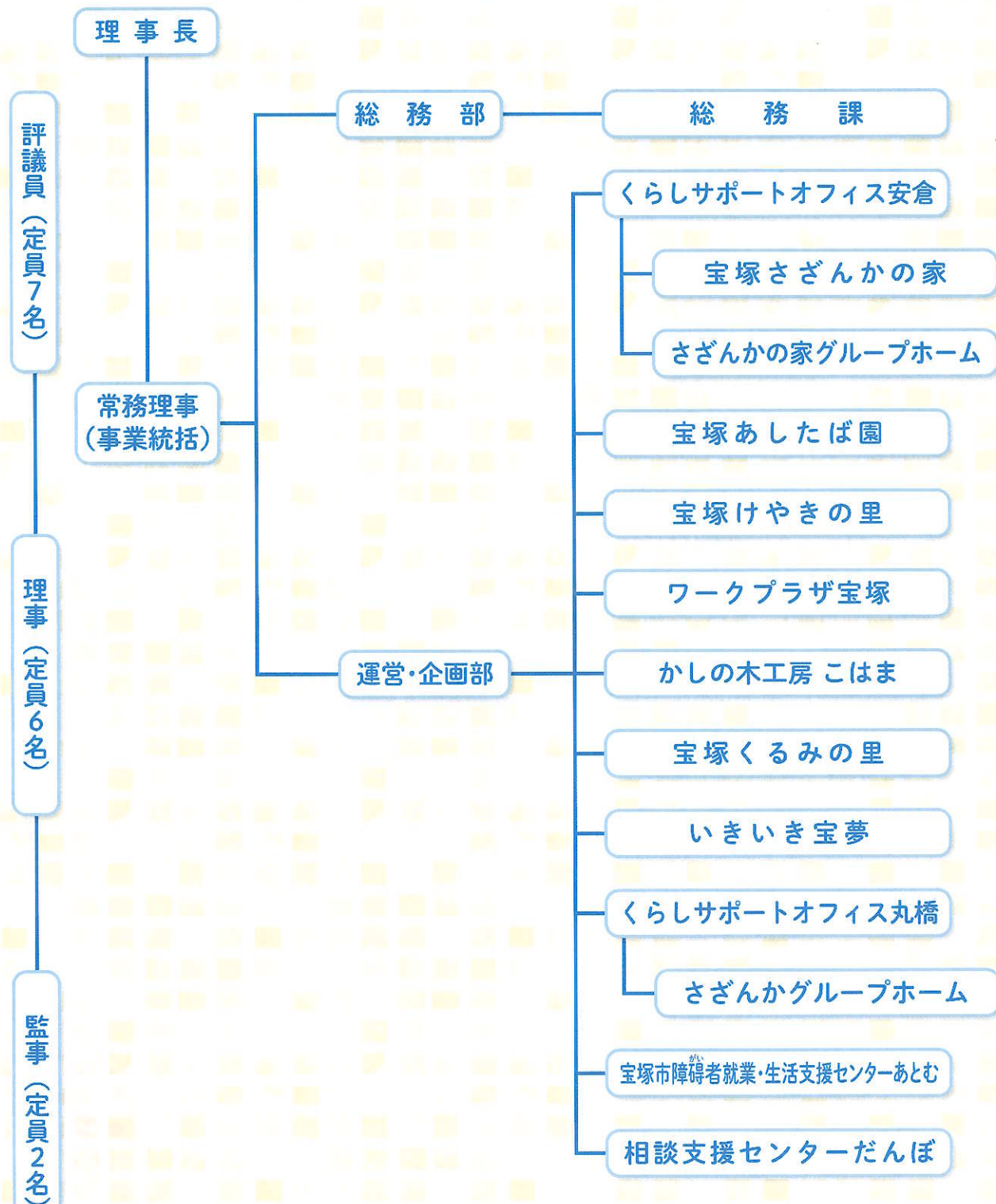
本当に沢山の利用者のご家族、関係者の皆様の存在や姿勢からの学びの機会に感謝の気持ちで大切な体験を積み重ねられる仕事です。その貴重な機会を法人職員皆と分かち合いながら、切磋琢磨し、利用者の皆様の毎日の生活とこれからの人生を支え続けられる様な法人になれる様に新たな役割として尽力したいと思います。

今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

運営・企画部 企画部長
山下 知一



宝塚さざんか福祉会組織図



令和6年度

社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会 事業計画・研修計画

重点取組内容

障害者福祉・医療・介護の3分野の報酬が一斉に改定され、サービス提供時間の実態に応じた報酬水準への見直しやご本人の意思を尊重し、選択の機会を確保するための意思決定支援の推進等、より支援の実態に応じた適切な評価が求められる改定となっており、質の高い支援提供や安定した事業継続への課題にしっかり向き合い事業を進めてまいります。

また、第2期行動計画が最終年度となり、この5年間の進捗状況を総括し、改めて課題を集約し、第3期行動計画を策定します。計画策定においては、法人すべての拠点や事業の今後の在り方、人材確保や財源等の課題も総合的に検証し、潤沢な人材確保が難しく、加算が取得できる体制・維持そのものが困難な状況も踏まえ、受託事業も含め持続可能な事業展望や継続判断等、施設整備計画と合わせて検討を重ねていきます。

1. 組織運営・経営体制の強化について

① 第3期行動計画の策定

第2期行動計画の取り組み状況等の総括とともに、第3期で取り組むべき課題の抽出及び優先課題等の総括を行い、「経営課題推進委員会」を「行動計画策定委員会」に統合し、第3期行動計画を総合的に策定していきます。

また、この計画実施期間に50年を迎える「宝塚さざんかの家」の今後の施設整備に向けての計画検討を契機に、法人全体の施設機能や各拠点等の役割等も総括し、今後一定の期間に連続する施設整備事業計画を総合的な視点で検討していきます。

② 委員会・プロジェクト (PT) について

ア.「トータル人事システム」が運用開始より3年が経過し、就業規則の改定等労働環境の変化に伴い、これまでの振り返り、グレード表の見直し等仕組みがより良く改善し、運用されるための検討を行う「キャリアアッププロジェクト (PT)」を新たに設置します。

イ. サービス提供会議に「進路・異動等委員会」の協議機能を統合させて、支援・サービス提供の在り方等を総合的に推進するための会議運営をおこないます。

③ 新しい支援グループ体制への取り組みについて

「宝塚さざんかの家」を基幹とした日中事業所とグループホームとの一体的な支援体制が始まります。24時間365日の支援体制を安定して維持するため、相互に理解・協力し合いながら、取り組むと共に、引き続きさらなる支援の安定を目指して、新たなエリアでの「新しい支援グループ」につなげるよう、実践していきます。

④ 福祉サービス第三者評価の実施について

今年度受審する「いきいき宝塚」は2巡目となるため、前回アセスメントされた具体的な改善課題に対し、どのように取り組むことができたのかが明らかになります。新型コロナウイルスの長期的な蔓延など、想定外の状況等はあったものの、客観的に現場現況を再受審し、課題等の改善状況を前回と比較し、より良い支援現場の構築につなげていきます。

⑤ 法人内部監査等の実施継続について

顧問会計士による毎月の会計指導・拠点往査指導や、部長職による半期ごとにチェックリストを活用した各事業所への内部監査、総務部職員による巡回や定期的な棚卸しを実施し、法令遵守に努め、適正な法人運営や健全な法人経営となるように、日々の改善や経費節減等に繋がる取り組みを継続して実施します。

2. 人材の確保・育成・定着について

① 人材確保への取り組み

- ア. 兵庫県知的障害者施設協会や福祉専門職養成校等主催の福祉就職フェアに積極的に参加し、新卒者の確保に努めます。
- イ. 法人ホームページや求人サイト、ハローワーク等求人媒体を有効に活用し、経験者雇用等にも努めます。
- ウ. 施設実習・インターン等の積極的な受け入れを行い、この仕事の魅力ややりがい、おもしろさをダイレクトに伝えられる機会を活用し、人材の確保につなげます。

② 「こころとからだの健康」について

産業医及び衛生管理者を配置し、衛生委員会による適切な安全衛生管理体制を継続し、各事業所の管理者と連携しあいながら、常に職員の健康保持増進、健康障害防止、労働災害の再発防止等への対策と安全衛生に関する意識の向上や安心して働き続けられる職場環境の改善に取り組みます。また、既存の仕組みとは別に外部相談機関とも契約し、Web（24時間）や電話（月～土 9時～21時）での気軽に相談ができる窓口（メンタルヘルスホットライン）も開設します。

3. 事業運営・経営における取り組みについて

① 事業運営について

- ア. 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（差別解消法）」の改正法が、2024年4月に施行されます。今回の改正では、合理的配慮の提供が「行政機関」と同様に、「事業者」にも義務化されます。障害を理由とする差別や生活上の障壁（バリア）を無くしていくことを目的とした行動（アセスメント等）や活動（啓発等）をより意識し、合理的配慮への視点を職場環境や現場支援の中でも広げ、法人運営や日々の活動・支援等にもつなげられるように取り組みます。
- イ. 令和3年度報酬改定時に、業務継続計画等の策定、研修の実施、訓練（シュミレーション）の実施等について、令和6年度からの義務化が打ち出されており、策定済ではありますが、感染症や災害が発生した場合であっても、必要な障害福祉サービスが継続し、すみやかに提供できるよう「備え」を再点検するとともに、研修・訓練等を引き続き実施します。

② 地域貢献について

- ア. 宝塚市社会福祉法人連絡協議会等分野を越えた繋がりを構築するための活動に参加します。
- イ. 自治会等と共に災害時の食を考える「食と防災」実地研修の実施や防災協定等、命を守る・守り合う減災・防災のための連携等をおこないます。また、広域での災害派遣等を含めた応援要請や必要物資の提供等について、速やかにできることから対応します。
- ウ. 福祉人材の育成・養成・啓発のための現場実習や、障害者福祉・権利擁護等の分野に関する講座、演習等への講師派遣等に取り組みます。

③ 経営環境・財務計画について

- ア. 2025年（令和7年）4月から完全義務化される「65歳定年制」について、法人は既に「継続雇用制度」を導入し、義務化への対応は整備していますが、経験を積み上げた職員の給与ベースの維持やキャリアの活用等に対応するために、令和6年3月に「65歳定年制」を導入し、令和5年度から令和7年度の3か年に定年を迎える職員には、経過措置として、60歳または65歳での定年を選択できるよう移行期間を設け、2025年に完全移行します。
- イ. 令和5年9月に策定した「女性活躍推進法、次世代育成支援対策推進法」に基づく一般事業主行動計画【資料①参照】について、男女ともにすべての職員が仕事と子育てを両立させることができ、安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮できるよう行動していきます。
- ウ. 老朽化した各所パソコン、法人本部電話設備等の新規入替を順次実施します。
- エ. 老朽化等への対応として大規模改修等を予定しています。

4. 職員研修計画について

① 基本方針

法人理念を基にした経営活動を実践するため、人材確保・育成・定着への取り組みが豊かな「人・組織・地域」づくりにつながるように、職員一人ひとりが「目標」を持ち、学びたいと思う気持ちに効果ある研鑽等を積み重ねていけるよう最大限配慮します。

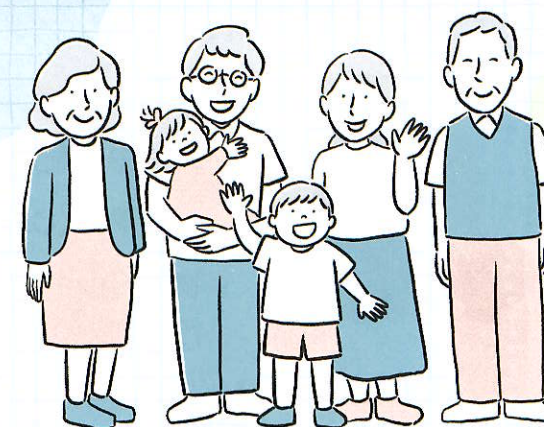
研修については、個々に合わせて策定し、「育成」「評価」「処遇」が連動し、意欲・能力を十分に発揮できる職場づくりにつながるよう計画します。特に「人権・権利擁護」につながる「援助観」「人間観」「倫理観」に関する研修を積極的に取り入れ、不適切な対応や事故等防止のための支援技術や職場倫理の向上に努めます。

② 進め方について

- (1) 職員一人ひとりの「目標」をサポートする研修計画の作成
- (2) 法人研修体系に基づく派遣等（Off-JT）研修の実施
- (3) 法人内（OJT）研修について

③ 重点課題

- (1) 全職員対象の研修について
 - ・法人理念を基とした人権及び権利擁護を遵守するプロの組織であるための研修を実施します。
- (2) キャリア別研修について
 - 1. 新規採用職員や経験年数の浅い職員、経験者雇用職員への人材育成を積極的に行います。
 - 2. 中堅職員のソーシャルワークスキルの向上と「援助観」「人間観」「倫理観」の再構築につながる研修を行います。
 - 3. 管理職に対して、組織運営や労務管理等に関するマネジメント研修等を実施します。





ときめき

—宝塚さざんか福祉会後援会ニュース

2024.7.1

春はあけぼの。枕草子の出だしです。皆さまは春を楽しみましたでしょうか。

さて、新体制がスタートして一年以上が過ぎました。初心志と目標達成への熱い思いはコツコツ…と取り組む努力を積み重ねておりますが、なかなか順風満帆とはいかず汗をかいております。

無学無才な私が後援会会長として働かせていただいてもよろしいのでしょうか、皆さまからの応援の気持ちである「会費」の活用方法について、どのような方向を目指すべきなのかと、種々悩みつつも、日々邁進してまいりたいと思います。

今まで一般会費 3,000 円、特別会費 10,000 円と金額を設定しておりましたが、今年度より一〇 1,000 円として、おひとり様何口でもご支援いただける形に変わりましたので、引き続き皆さまのあたたかいご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

宝塚さざんか福祉会後援会 会長 高屋舗 純子

ご支援ありがとうございます。

令和 5 年 1 月 1 日～令和 5 年 12 月 31 日
(ご寄付いただきました)

東 彰子 山口 浩章 齋藤 経子 川合 陽美 井上 聖 田中 利美
清荒神清澄寺 大野 セツ子 福岡 泰子 匿名 2 名

順不同敬称略

令和 5 年度会員数 (紙面上お名前は割愛させていただきました。)

一般会員 61 名 特別会員 32 名 団体会員 1 名

皆様のご支援よろしくお願い申し上げます

会費 振込先

ゆうちょ銀行 口座番号 01160-0-4373
加入者名 宝塚さざんか福祉会後援会

宝塚さざんか福祉会後援会 事務局 宝塚市安倉西 3 丁目 1 番 5 号 (0797-83-6544)



2023年度 (令和5年度) 決算

(令和 5 年 4 月 1 日～令和 5 年 12 月 31 日)

収入の部

科 目	2023 年度予算 (A)	実績 (B)	(A) - (B)	予算達成率	備 考
会費収入	1,140,000	522,000	618,000	46%	
一般会費	510,000	192,000	318,000	38%	@ 3,000 円
特別会費	600,000	330,000	270,000	55%	@ 10,000 円
団体会費	30,000	0	30,000	0%	@ 10,000 円
負担金収入	80,000	0	80,000	0%	
寄付金収入	100,000	113,000	-13,000	113%	
雑収入	2,000	211	1,789	11%	預金利息
積立金取り崩し収入	0	0	0	0%	
当期収入合計 (1)	1,322,000	635,211	686,789	48%	
前期繰越金収入	401,931	401,931	0	100%	
収入合計 (2)	1,723,931	1,037,142	686,789	60%	

支出の部

科 目	2023 年度予算 (A)	実績 (B)	(A) - (B)	予算達成率	備 考
事務費支出	250,000	84,548	165,452	34%	
旅費交通費	5,000	6,000	-1,000	120%	令和 5 年度総会交通費
一般事務用品費	45,000	3,587	41,413	8%	領収書・コピー用紙
印刷製本費	20,000	0	20,000	0%	
会議費	20,000	0	20,000	0%	
通信運搬費	100,000	32,980	67,020	33%	年賀状・切手代
賃借料	5,000	0	5,000	0%	
雑費	55,000	41,981	13,019	76%	
振替手数料	50,000	18,041	31,959	36%	郵便局振込手数料
その他手数料	2,000	1,540	460	77%	銀行振込手数料
諸雑費	3,000	22,400	-19,400	747%	前会長等へのお花代
事業費支出	266,000	0	266,000	0%	
施設援助費	0	0	0	0%	
施設活動援助費	0	0	0	0%	
地域交流費	0	0	0	0%	
啓発活動費	115,000	0	115,000	0%	
機関誌印刷費	80,000	0	80,000	0%	
総会費用	30,000	0	30,000	0%	
雑費	5,000	0	5,000	0%	
研修費	150,000	0	150,000	0%	
地域生活支援費	0	0	0	0%	
雑費	1,000	0	1,000	0%	
寄付金支出	0	0	0	0%	
積立預金支出	700,000	0	700,000	0%	
予備費	100,000	0	100,000	0%	
当期支出合計 (3)	1,316,000	84,548	1,231,452	6%	
当期収支差額 (1-3)	6,000	550,663	-544,663	9178%	
次期繰越収支差額 (2-3)	407,931	952,594	-544,663	234%	

貸借対照表

(令和5年12月31日現在)

(単位: 円)

勘定科目	当年度末	前年度末	増 減
資産の部			
流動資産	952,594	574,981	377,613
現金預金	952,594	574,981	377,613
現金	0	57,367	-57,367
預金	509,825	230,754	279,071
郵便振替	442,769	286,860	155,909
未収金 (預り会費)	0	0	0
固定資産	12,000,000	12,000,000	0
積立預金	12,000,000	12,000,000	0
資産の部合計	12,952,594	12,574,981	377,613
負債の部			
流動負債	0	173,050	-173,050
未払金 (法人へ会員からの寄付)	0	149,050	-149,050
預かり次年度会費 (郵便振替)	0	24,000	-24,000
負債の部合計	0	173,050	-173,050
純資産の部			
積立金	12,000,000	12,000,000	0
次期繰越収支差額	952,594	401,931	550,663
純資産の部合計	12,952,594	12,401,931	550,663
負債及び純資産の部			
負債及び純資産の部合計	12,952,594	12,574,981	377,613



宝塚さざんか福祉会への寄付 (令和5年4月1日～令和6年3月31日) 敬称略

総額 5,414,624円

ありがとうございました。それぞれの事業所で有意義に使わせていただきました。

法人本部 (医療法人社団仁成会、匿名(1名)、宝塚更生保護女性会、上江洲薫、松井瑞夫、宝塚さざんか福祉会後援会)・宝塚さざんかの家 (宝塚さざんかの家保護者会、匿名(2名))・宝塚めふプラザ (岡本光一) かの木工房 こはま (かの木工房 こはま保護者会、匿名(2名))
宝塚けやきの里 (宝塚けやきの里保護者会)・宝塚くるみの里 (坂上瑞穂、坂上靖子、匿名(1名))
いきいき宝夢 (橋本千秋、都山隆宏、矢野、高野照美、建部好治)・さざんかグループホーム (オカリナグループ「あじさい」代表宮内美穂子、グループホーム全体保護者会、田村京子、宮内美穂子、岡野尚美、匿名(1名))

令和6年3月30日に入職式を行いました。
希望と新たな決意を胸に一步ずつ進んでいこう!

